

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 終了時活動報告書（2024 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	『中学教科単語帳』（日本語⇒シンハラ語）の発行と多様な児童生徒が共に学びあう学習環境づくりの促進
(2) 実施団体名	とちぎに夜間中学をつくり育てる会
(3) 実施期間	2024 年 11 月 15 日から 2025 年 11 月 14 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	栃木県、東京都、その他全国都道府県
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>日本語を母語としない外国にルーツを持つ児童生徒の日本語学習と教科学習の両方を効果的に応援するには、学習用語に特化した分かりやすい辞典が必須である。また、日本で多文化共生社会を構築していくためには、外国にルーツを持つ児童生徒と日本人児童生徒が共に学び交流する学習環境づくりを積極的に進める必要がある。</p> <p>本会は、多文化共生の視点を重視する「多様な学び教室」を 2003 年 4 月に開校した。また、2023 年度には急増するネパール人児童生徒の学習支援充実を目的に JICA 基金活用事業として、『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語）を発行した（2024 年 3 月）。これらの実績を踏まえ、教材開発と学習環境づくりの事業に取り組む。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>(1) 多文化共生的な学習環境づくりの促進。「多様な学び教室」では 2003 年度主に外国にルーツを持つ児童生徒の就学や進学を応援してきたが、2024 年度からは地域の小中学校や「親の会」（不登校児童生徒の親の交流団体）等との協力を深め、外国人・日本人児童生徒およびその保護者が共に学び交流する場に発展させていく。</p> <p>(2) 『中学教科単語帳』の継続的な作成・発行と普及・活用。在留外国人のなかではマイノリティグループである外国人学習者にも関心を広げ、シンハラ語（スリランカ）の単語帳を発行する。また、ネパール語版及び業務代表者が宇都宮大学在任中に発行した 6 言語の『中学教科単語帳』の全国的な普及・活用を促進する。</p>

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

- ・「多様な学び教室」

2024年11月から毎週水曜日（14時20分から19時10分まで）、宇都宮大学キャンパスで開講した。学習者一人一人のニーズに対応する学習支援と異文化間学習・交流を目的とするグループ学習の二本立てで行った。

- ・『中学教科単語帳』（日本語→シンハラ語）の発行

2024年12月に『中学教科単語帳』（日本語→シンハラ語）を発行した。1000部発行し、全国の教育現場や学習支援関係者に無料配付した。

- ・単語帳発行記念スリランカ交流会を2回（2024年12月および2025年8月）開催した。県北の那須塩原市、県央の宇都宮市、県南の栃木市等に在住のスリランカ人と日本人の交流を促進するとともに、スリランカ及び在住スリランカ人の現状や課題を学ぶ機会とした。また、スリランカ大使館を表敬訪問した。

(2) 実施成果：

多様な学び教室では、学齢超過外国人生徒の高校進学や日々の学習に困難さを抱える外国人児童生徒の学習支援をすることが出来た。また、ほとんど家に引きこもりの不登校状態にあった数名の児童生徒の参加を促し、学習機会や人的交流の場を提供できた。

単語帳の普及・活用を全国規模で行うことが出来た。全国の支援者や学校関係者からの単語帳送付の希望に対して、迅速に対応した。その際、支援する学習者の状況や支援活動・方法について希望者の多くと情報共有を行った。

スリランカ勉強会・交流会を2回開催した。1回目は2024年12月22日で、約80名のスリランカ人、学びの教室参加者、ボランティアスタッフ等が集まった。

最初の挨拶やI部では、シンハラ語単語帳発行の背景や目的などについて語られた。そして、翻訳に協力してくれた2名が、翻訳は大変な作業だったこと、でもとても楽しい作業だったことを語った。適切な訳語を決めるのに何度もスリランカ現地の教育関係者と連絡を取ったこと、適切な訳語が持つかからない場合は文章で説明したこと、地理の翻訳が一番難しかったことなど語られ、翻訳の難しさが伝わってきた。

II部では、長年日本で暮してきたDさんがなぜ日本語を学び続けているかについて話してくれた。来春高校を受験するA君は、将来IT関係の仕事をしたいと語った。中学1年生のRさんは将来医者になりたいと語った。栃木市在住のAさんは手作りの美味しいコキスとあたたかなジンジャーティーを用意してくれて、是非味わってほしいと語った。III部では、アコーディオンとギター演奏で、「前を向いて歩こう」を皆で歌った。

2025年8月30日に開催した2回目の交流会には約40名が集まった。交流会は、①本会代表挨拶（参加できなかった高校生のインタビュー動画紹介を含む）、②『中学教科単語帳（日本語→シンハラ語）の翻訳者に聞く、③日本語を学び続ける社会人と上記高校生の父親からの各メッセージ、スリランカ大使館表敬訪問報告、④音楽で交流（原文日本語「前を向いて歩こう」と英語版 [Let us all look ahead and walk] を歌う）の4部構成であった。

「翻訳者に聞く」のコーナーでは、本会代表者が翻訳者の人選に「全く迷わなかった」ことを伝えると、翻訳者もスリランカの子どもの学習支援をしていて、このような単語帳が必要と思っていたところだったので、私も引き受けることに「全く迷わなかった」と振り返ってくれて、「全く迷わなかった」の二乗で本単語帳

が出来上がったことが再確認された。

なお、交流会の冒頭で JICA 筑波より、締めくくりにはとちぎ自主夜間中学宇都宮校校長の川村滋様さらに栃木市国際交流協会の鈴木康子様より、それぞれご挨拶もいただき、大変有意義で楽しい会となった。

2025 年 8 月 18 日、スリランカ大使館を表敬訪問した。主な訪問目的は、『中学教科単語帳』（日本語⇒シンハラ語）を大使館に寄贈し、単語帳の普及や活用などについて意見交換するというものであった。応対・面談して下さったのは、駐日スリランカ次期大使、参事官、日本人職員の方の 3 名で大変友好的に迎えていただいた。本会からは役員 3 名が出席した。面談はすべて英語で活発に行われ、時間も 40 分以上にわたり、とても有意義で実りの多い訪問となった。

（３）得られた教訓など：

多様な学び教室で実践しているマンツーマン形式での学習が効果的であることを確認出来た。学習者によって理解度も進捗も多様であるが、マンツーマン形式では一人一の学習者に寄り添うことで、学習者が抱えている困難を共有し、学習内容や方法をともに考えていくことが出来る。家に引きこもり状態にあった不登校児童生徒が、数回とはいえ多様な学び教室に参加できたことには「年齢も国籍も問わず誰でも参加できる多文化共生的な環境」が大きく影響したと考えられる。このような教室は多文化共生社会を実現していく拠点として大きな役割を果たしえる。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

『中学教科単語帳』（日本語⇒ネパール語、2024 年 3 月発行）が大きな契機となり、栃木市に「とちぎ蔵の街自主夜間中学」を開校することが出来た（2024 年 10 月）。多様な学び教室と本校を多文化共生的な学びの場として発展させていく。幸いにも 2025 年度 JICA 基金活用事業に採択されたので、ウルドゥー語の単語帳を発行し、パキスタン人との交流を図っていく。また、団体の自己資金にて英語版単語帳の発行を準備していく。

2026 年 4 月には栃木県では初めての県立夜間中学が栃木市にある県立学悠館高校内に開校される。単語帳の同校への寄附を始め、同校との様々な連携を図っていく。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

2025年3月30日に開催したオープンキャンパスには、大川秀子栃木市長と青木千津子栃木市教育長がお祝いと激励に駆けつけてくれた。市長からは、自主夜間中学が学び直しや日本語学習のための貴重な学びの場になっていることが強調された。9月に開催した「こんばんは」の上映会やシンポジウム「自主夜間中学は何を目指すのか」にも栃木県・栃木市教育委員会等の行政関係者の参加があり、本会活動と行政関係者との関係づくりの確実な進展を感じることが出来た。そして、本会が宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会や栃木市国際交流協会と協働して取り組んできた「年齢も国籍も問わず誰でも無料で学べる場」をつくり育てる活動が「令和7年度輝くとちぎ“づくり”表彰」において最優秀賞を受賞した。「とちぎ蔵の街校自主夜間中学」の開校はネパール語単語帳の発行と栃木市でのネパール交流会の開催が直接の契機となったものである。つまり、JICA基金活用事業に取り組むことが出来なければこの受賞はなかったといえる。JICA基金活用事業に取り組む機会を与えていただいたことに改めて感謝申し上げたい。11月6日(木)に栃木県庁で授賞式が行われたが、その席で副知事から、栃木県立夜間中学の開校(2026年4月)に先立って自主夜間中学の活動を始めたことに謝意が述べられた。本会の仮の校歌「前を向いて歩こう」には「不思議な縁で出会った 誰もが(一緒に 学ぶとちぎの此処)」という歌詞があるが、本会が発足して4年。複数の学び場の開校と単語帳の発行、改めて不思議な縁を感じている。最後に、本会代表者が今年度栃木市多文化共生推進プラン策定懇談会の座長に選出されたことを記していく。とちぎ蔵の街自主夜間中学の活動や単語帳の発行に対する評価が背景にあったものと思う。

(2) 活動の写真



第1回シンハラ語単語帳発行記念交流会



シンハラ語翻訳者と会代表



スリランカ大使館表敬訪問(単語帳・活動紹介)



第2回シンハラ語単語帳発行記念交流会



とちぎ蔵の街自主夜間中学での朝のミーティング



輝く“とちぎ”づくり表彰 表彰式

（3）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

何よりも、全国の教育現場や学習支援関係者が利用できる単語帳を発行出来たことが良かった。素晴らしい学習用語辞典であるとの感謝の言葉が全国から寄せられている。単語帳の発行を記念して開催した交流会を通じて、とちぎ蔵の街自主夜間中学が生まれ、また、これまでほとんどで会うことのなかったネパール人やスリランカ人との交流が進んだ。本会（2021年3月発足）の活動は、夜間中学に関する研修会の開催を除けば、2023年3月まではとちぎ自主夜間中学宇都宮校の開校および運営支援に限定されていたが、JICA 基金活用事業を実施できたことで、学び場の増設や教材開発など、団体の成長につながる事業を展開できた。また、様々なイベントに JICA 筑波関係者にご参加いただいたことは、本事業を遂行する上で、また引き続き意義ある事業を計画する上で大変大きな励みとなってきた。